

第3回 市営住宅プロジェクト委員会 主な意見

・出席者 ⇒市・事務局

●建替住宅の整備内容について

- ・高層住宅になると、地上から遠くなって1階に下りる頻度が減るのでは。結果、地域活力が低下しないか心配。

⇒集会所での活動や、歩いて楽しくなる通路・共用空間の整備など、活動内容や空間のつくり方次第では1階につい下りたくなる空間になりえると思う。そのようなイメージは目指していきたい。

- ・中型バイクなどもあるので、駐輪場整備にあたって配慮が必要。
- ・駐車場は遠くでなく見える場所に設けてほしい。

●住戸面積について

- ・1人世帯用住戸は、全体の45%も必要か。退去したら空き家になるのでは。

⇒1人世帯は建替対象団地の入居世帯の約45%を占める。2期・3期の入居予定者など、順番待ちとなる世帯もあり、空き家が出たらその方々が入居する。そのため、空き家は生じにくい。また、世帯規模は縮小化しており、単身世帯は増えている。そのため1人世帯用住戸は需要が高い。

●入居後の暮らしについて

- ・中間まとめの内容は整備するまでの話としては良いが、入居後の暮らしも考える必要がある。

- ・ゴミ置場の清掃や駐輪場の整理など、地域で行うことが理想的だが、団地によってはお金を出し合って外部委託している団地もある。経済面含めて余裕・ゆとりがない若い世帯や、活動協力が難しい高齢者も多く、地域活動の継続に不安がある。

- ・跡地活用で新たに住宅地が形成される場合に、市営住宅入居者とのコミュニティ形成が上手くいかか懸念がある。なにか地域がまとまる旗印のようなものが必要ではないか。

- ・新たな住民にとっては自分たちのまちという認識が薄いと思う。主体的にまちづくりへ参加するしかけも必要。

⇒新たな住民とのコミュニティ形成に資する提案を事業者募集の中で求めることは可能だと思う。一方、中心はあくまで住民同士であるので、地域として協力しあえる準備が必要。

- ・ゴミの不法投棄や騒音を出す入居者がおり困っている。ゴミが散らかっている公園などもある。

⇒丸笠団地のように入居者組合の清掃活動によって公園がきれいになり、子ども達が集まるようになっている例もある。そのような一つ一つの取組みにより、まちがよくなるということだと思う。今回建替え後につくる大きめの集会所や、継続するすこやかリビングなどがコミュニティづくりのきっかけとなる拠点となれば、と考えている。

- ・ルールを守らない困った入居者に対しては、行政からは注意喚起を強く促す、地域のリーダー（入居者組合）も促していくなど、連携して対応を図っていくことが重要。

- ・和泉第一団地は、建替準備のため募集停止し入居者が少ない。不審者もあり不安が多い。エレベーターはあるが半階の上り下りがあるため移動が大変なため班長のなり手も少ない。

- ・入居者には、入居者組合が地域活動を支えていることをきちんと伝え、参画を促すことが必要。

●その他

- ・入居者に対して市の方針を伝え、意見を聞く場を設けることが必要。

⇒中間まとめ報告の場として、3月下旬に市主催の入居者説明会の場を設ける予定。